

公益活動
クローズアップ
2015

鹿児島法人会 西部支部



青少年の健全育成を目的に 命の大切さを伝える

女優たぬきさんが、平成27年11月6日、創立40周年を迎えた鹿児島市の明和中学校（生徒約260人）で一人芝居を披露し、自分を大事にすることや希望を持つことの大切さを伝えました。

同校の創立40周年記念式典の舞台に立った”たぬき（本名・田上美佐子）”さんは、自身の実話を基に、発達障害で人とコミュニケーションがとれなかった少女が、ある劇団に出会い、芝居を通して成長する姿を熱演し、生徒の中には、涙を拭いながら鑑賞している姿も多数見られました。

鹿児島法人会西部支部では、平成21年から地域貢献活動の一環として「地域で大切なことは、家庭や学校と地域の繋がりがあってこそ、青少年の健全な心は育まれる」という強い想いのもと、学校現場で保護者の参加も含んだ形での講演活動に取り組んでいます。

今回で7回目になるこの事業は、支部管内にある9つの小学校と4つの中学校を対象に、毎年場所を変えて実施しています。

テーマは、親子の愛情やきずなを問いかけるもの、笑うことの効用と言葉の力が持つ意味、感謝の心の大切さなど、講演を通じて「命の尊さと夢を持つことの大切さ」を、子供たちに伝え続けています。

この事業に当初から出演していただいている”たぬき”さんは、舞台や講演での一人芝居、テレビドラマなどの活躍で有名ですが、平成26年4月、医師より余命半年を宣告され、以降、厳しい抗がん剤治療を続けています。

たぬきさんは病を通して、心情にも次のような変化が出てきました。
「特攻隊員は死から逃げられなかった。私は生きようと努力できる」「癌と向き合って前向きに生きよう。大好きな芝居を月5回はやる」これまでの講演活動の中で、何十回も特攻隊員を見送る母の役を演じてきたからこそ、気付くことができたそうです。

たぬきさんは、癌と告げられた平成26年から事業の中で、「命がどれだけ尊いのか」を多くの子供たちにこれまで以上に訴えています。

このたぬきさんの想いを感じ、西部支部では今後も青少年の健全育成活動に取り組んでいきます。

